

# 肯定派ディベート立論

## 第一立論 4分

### ①現代日本語の能力向上

第一に、古典を読むことで現代日本語をより適切に使うことができます。例えば、「～せざるをえない」を「～せざる終えない」などと書いてしまう間違いがあります。これは、古典の授業で学ぶ知識を使えば「せ・ざる・を・得・ない」が正しい、と判断できます。このように現代日本語を適切に使えることは、周囲のその人への評価に直結します。

### ②古典を読む過程で、論理的思考を学べる

第二に、古典を読む過程で、論理的思考を学ぶことができます。

本来、古典を読むときには、単語や文法の意味、文脈、時代背景など様々な要素を考慮して、どのように解釈するかを考えます。つまり、古典を読むときは感覚だけではなく、根拠に基づいて論理的に思考することが必要不可欠なのです。

では、こうした論理的思考は、どういうときに役に立つのでしょうか。

例えば、現代文を読んでいて、理解していない語句があってもなんとなく読み流してしまうことはありませんか？日常的に使う日本語だから読めている気がするけれど、実は理解できていないことも多いです。しかし、古典の授業で学ぶ論理的思考を身につければ、一度そこで立ち止まることができるようになります。

このように、原文に基づいて論理的思考を学べるのは古典の授業の特長です。

### ③先人の知恵に学ぶ

第三に、「先人の知恵を借りる」とはよく言ったもので、古典には現代の私たちも学ぶべきことがたくさんあります。孫子は現在も経営戦略として読まれますし、徒然草から生き方を学ぶような本も数多く出版されています。また、最近では江戸時代の疫病退散の妖怪「アマビエ」を絵に描いて、新型コロナウイルスの早期収束を願う人がたくさんいました。現代の人々は古典から外出自粛を乗り越えるためのヒントを得ていたのです。

そして、これらは原文で読んでこそ理解ができます。人は言葉で物事を認識しているので、日本文化の理解には古典語の理解が必要不可欠です。例えば、今の私たちにとって「紫」であるものも、古典の世界では「二藍」「葡萄染」「茄子紺」などと見分けられていました。原文でこれらの色に出会うことで、その和の色の美しさを感じることができます。また、古典のリズムは今の日本にも生きています。俳句はお～いお茶に書かれているくらい身近なものですし、「プレバト」という番組での俳句の添削も人気ですよね。

古典の授業で習う程度の知識があるだけで、これらをより一層楽しめるようになります。

### ④国際社会で生きていくには、自国の文化を知るべき

第四に、この国際社会で生きて行く私たちの世代が自国の文化を知るのは、当人にとって必要だと主張します。

例えば、16世期にウィリアム・シェイクスピアが残した数々の名作は、必ずと言えるほどアメリカやイギリスの高校で教材として学びます。また、中国の学生が勉学の基本として古典を勉強するのは有名な話ですね。古典というものは他国でもこよなく愛され、次の世代に受け継がれてきたのです。

また、私たちが他国の文化に興味を持ち、知りたいと思う様に、日本の文化を知りたいと思う人は沢山います。その代表的な例として、アメリカの学校では俳句を一つの詩の形態とし

て習います。つまりこれらは、世界的に認められている文化的価値があることを示しているのです。それなのに、私たちが日本の古典を知らない状態であると、「自国の文化すら知らないのか」という印象を残すことにもなります。

---

## 第二立論 4分

### ⑤文語文に自らアクセスできる

古典の授業では、文語文に自らアクセスできるリテラシーが身につきます。否定派は原文で読む必要のある人はほぼいないと言いますが、日本ではたった70年ほど前まで文語文が使われていました。どんな分野においても、70年前のことを知ろうとすれば、文語文を読まなければならない状況に直面するのです。現代語訳で良いではないかという意見もあるかもしれませんが、現代語訳には、訳者の解釈が含まれています。現代語訳しか読めないということは、訳者の考えの土台に乗ることしかできないということです。万が一、事実が書き換えられていたとしても気づけません。それに対し、原文を読み本当はどうかを自分で調べることができれば、自分で自分の考えの土台を築けるのです。

原文に自らアクセスできることは、当人にとっても社会にとっても必要な能力です。

### ⑥現在の価値観の相対化

また、古典には確かに現代にそぐわない内容がありますが、そういう内容こそ、隠さずに教えるべきです。日本は長い間、身分制社会で、男尊女卑の価値観が根付いているというのは事実です。排除するのではなく、その事実に向き合うべきです。古典の授業で現代と違う価値観に出会ってこそ、なぜそうした価値観があったのか、なぜそれは現代にそぐわないのか、現代はどのような価値観なのか、自分はどんな価値観を持っているのか、と考えることができます。現代を相対化できれば、社会が変わっても対応できるアイデアを得られます。そのとき、教員が何もリードしなければ、それらも「教科書だから」と権威化されてしまう危険があります。そのため、そうした内容について体系的に学ぶ授業が必要だと考えます。例えば、古事記・源氏物語・とりかえばや・江戸の世話物などの恋愛の場面を少しずつピックアップして読み、色々な恋愛の形を知ることによって、現代の価値観を相対化させていく、そんな授業が必要です。

### ⑦古典は日本人のアイデンティティ

さらに、古典は日本人に根付いているアイデンティティです。現在の日本語や日本の文化は古典から来ています。そのため、古典を学ぶことによって現代の日本語や日本の文化を知ることとなり、同時に今の私たち自身を知ることができるのです。古典を学ぶことによって日本語という言語の魅力を知り、文化的自信を実感します。

また、古典を読んでいると、昔の人も今と似たような考え方をしていることに気づきます。例えば、方丈記は災害や疫病が起こるたびに注目され、人々に繰り返し読み直されてきました。

これは、方丈記に描かれた人間の弱さや情熱といった感情が、八百年の時がたとうとも変わることなく生きていくからです。今とは全然違う、八百年も前の社会に生きる人々に、私たちは共感することができるのです。古典を読むと、「人間の感情は時代を超えて普遍的なんだ」という発見があります。

そしてこのように昔の人々に共感するからこそ、古典を題材にした作品は数多く存在するのです。近現代で言えば、芥川龍之介や三島由紀夫の作品、最近では「君の名は。」などがその代表例です。

#### ⑧古典を批判的に読む

最後に、古典は確かにナショナリズムの高揚に利用される可能性があります。しかしそのように利用されたときに気づくためにも、高校の授業で古典を学ぶべきです。戦時中に宣長の歌が利用された事実なども含めて、学びましょう。そうすれば、現代において古典がそのように使われても、その危険にいち早く気づくことができます。

また、様々な時代の古典を読むことで、言葉が流動的なものであるとわかります。古典を通じて、今私たちが話している日本語を絶対視しないようになることは、「公用語としての日本語」をアイデンティティとするナショナリズムへの対抗手段になります。